

平成28年度
北九州市
障害児・者等実態調査
報告書

概要版

第1章 調査の概要

第2章 主な調査結果

第1節 郵便調査

第2節 聞き取り調査

第3節 市政モニターアンケート

平成29年3月

北九州市

第1章

調査の概要

第1節 北九州市障害児・者等実態調査

1. 調査の目的

この調査は、平成29年度に策定する「(次期)北九州市障害者支援計画(仮称)」の基礎資料とするとともに今後の障害福祉施策の参考とするため、北九州市内に在住する障害児・者について、生活実態やサービス利用状況等についての調査を実施しました。また、市民に対し、障害のある方への理解や関心の程度等の調査を実施しました。

2. 調査の対象(調査基準日:平成28年10月1日)

(1) 郵送によるアンケート(調査期間:平成28年10月1日~同年10月30日)

対象区分	調査人数	回収数	無効票	有効票	
				回収数	回収率
身体障害者	2,200人	1,290人	6人	1,284人	58.4%
知的障害者	1,000人	550人	7人	543人	54.3%
精神障害者	1,500人	739人	4人	735人	49.0%
障害児	400人	238人	1人	237人	59.3%
発達障害者	147人	120人	0人	120人	81.6%
難病患者	110人	90人	1人	89人	80.9%
計	5,357人	3,027人	19人	3,008人	56.2%

(2) 聴き取り調査(調査期間:平成28年10月4日~同年11月29日)

身体障害者	知的障害者	精神障害者		発達障害者	合計
		在宅、入所	入院		
23人	25人	21人	3人	26人	98人

(3) 市政モニターアンケート(調査期間:平成28年10月4日~同年10月20日)

障害福祉施策について

市政モニター人数:149名 回答:133名

第2章

主な調査結果

第1節 郵送調査

1. 暮らしの状況

1. 調査対象者の属性

- 調査回答者 3,008 名の内訳は、身体障害者および難病患者では 60 歳以上の回答者が 6 割程度を占め、知的障害者では 20 歳代、精神障害者では 40 歳代が最も多く含まれています。また、発達障害者では、今回、小中学校在学者の調査協力が多かったことから、20 歳未満の回答者が 8 割近くにのぼっています。
- 男女比は知的障害者、障害児は男性が約 6 割、発達障害者においても男性が 8 割を超え、高い割合となっています。一方、精神障害者は女性の割合が半数を超え、難病患者では 6 割以上が女性となっています。

【年代】

(%)

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=735)	発達障害 (n=120)	難病 (n=89)		障害児 (n=237)
0~5 歳				0.8	0.0	0~2 歳	0.0
						3~5 歳	14.3
6~11 歳				34.2	1.1	6~8 歳	13.9
						9~11 歳	22.4
12~17 歳				37.5	1.1	12~14 歳	23.2
						15~17 歳	26.2
18~19 歳	0.4	5.3	1.5	6.7	0.0		
20 歳代	3.8	22.1	9.4	10.8	1.1		
30 歳代	5.8	21.2	16.5	5	9		
40 歳代	10.4	21.9	23.9	4.2	12.4		
50 歳代	19	11.2	21.5	0.8	14.6		
60~64 歳	21	7.4	10.1	0.0	18		
65 歳以上	39.5	10.1	16.3	0.0	41.6		
わからない	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0		
無回答	0.1	0.7	0.5	0.0	1.1		

- 障害の種類、診断名としては、身体障害者では下肢の障害が、精神障害者では気分障害が、発達障害者では自閉症の割合が最も高くなっています。
- 知的障害と発達障害、身体障害と難病の重複の比率が高く、前者では療育手帳の、後者では身体障害者手帳の等級が、それぞれ重度である傾向がみられます。
- 障害児の中には知的障害や発達障害のある人が多く含まれていました。

【重複障害の状況】

		重複する障害				
		身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	難病
調査票の障害種別	身体障害 (n=1284)		114 (8.9%)	43 (3.3%)	41 (3.2%)	131 (10.2%)
	知的障害 (n=543)	120 (22.1%)		54 (9.9%)	170 (31.3%)	26 (4.8%)
	精神障害 (n=735)	72 (9.8%)	57 (7.8%)		102 (13.9%)	23 (3.1%)
	発達障害 (n=120)	2 (1.6%)	51 (42.5%)	6 (5.0%)		1 (0.8%)
	難病 (n=89)	56 (62.9%)	1 (1.1%)	1 (1.1%)	1 (1.1%)	
	障害児 (n=237)	76 (32.1%)	190 (80.2%)	8 (3.4%)	124 (52.3%)	24 (10.1%)

【療育手帳の等級（障害が重複している場合）】

等級		重度←←←→→→軽度					わから ない	無回答
		A1	A2	A3	B1	B2		
調査票の障害種別	身体障害 (n=114)	46 (40.4%)	25 (21.9%)	10 (8.8%)	6 (5.3%)	10 (8.8%)	17 (14.9%)	0.0 (0.0%)
	精神障害 (n=57)	3 (5.3%)	3 (5.3%)	1 (1.8%)	23 (40.4%)	25 (43.9%)	0.0 (0.0%)	2 (3.5%)
	障害児 (n=190)	30 (15.8%)	19 (10.0%)	3 (1.6%)	32 (16.8%)	104 (54.7%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)
	発達障害 (n=47)	16 (34.0%)	13 (27.7%)	0.0 (0.0%)	9 (19.1%)	9 (19.1%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)
	難病 (n=1)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1 (100%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)

2. 住まいについて

- 回答者の多くが自宅で生活していますが、そのほとんどは、家族または自分の持家に住んでいます。また、精神障害者は4割以上が賃貸住宅に住んでいます。知的障害者では約25%がグループホームや施設に入所しており、他の障害種よりも高い入所率になっています。
- 回答者の多くが親や配偶者と同居しており、高齢化の傾向にある身体障害者や難病患者の場合は、子どもとの同居もみられます。一方、障害児や発達障害者では、6割以上が兄弟姉妹とも同居しています。

【現在の住まい】

(%)

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (入院を 除く) (n=670)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病患者 (n=89)
自宅	88.3	69.4	95.9	94.6	90.8	97.7
あなた自身の持家	32.0	3.1	14.5	1.3	0.0	41.6
家族の持家	28.8	40.3	36.9	62.9	65.0	34.8
民間賃貸住宅	16.7	15.5	29.6	19.4	15.0	14.6
公共賃貸住宅	10.8	10.5	14.9	11.0	10.8	6.7
寮、社宅	0.6	0.6	1.0	0.4	3.3	0
グループホーム	0.9	9.6	0.6	0	2.5	0
入所型の施設	6.5	15.5	0.6	3.4	1.7	0
その他	2.5	3.3	1.6	1.3	0	1.1
わからない	0.1	0	0.0	0.4	0	0
無回答	1.2	1.7	0.3	0.0	1.7	1.1

【同居している人との関係】

(%)

	身体障害 (n=953)	知的障害 (n=443)	精神障害 (n=484)	障害児 (n=234)	発達障害 (n=119)	難病患者 (n=74)
配偶者	59.8	5.6	41.3	0.9	0.8	82.4
親	23.9	63.0	48.1	95.7	95.0	18.9
子ども	38.3	5.6	26.7	0.9	0.8	31.1
祖父母	0.7	4.5	2.1	12.0	10.1	2.7
孫	5.8	0.2	0.8	0	0	4.1
兄弟姉妹	8.1	27.5	13.8	68.4	61.3	6.8
その他親族	1.7	1.1	1.9	0.9	1.7	0
寮や施設の仲間	5.0	22.1	0.6	3.0	4.2	0
その他	1.6	2.0	1.0	0.4	0	0
無回答	0.3	0.7	0.8	0.4	0	0

- 概ね2割前後の回答者が引越しを希望していますが、精神障害者については4割弱が引越しを希望しており、その26%が「自立したい」からと答えています。

【引越しの希望の有無】

(%)

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=670)	発達障害 (n=120)	難病患者 (n=89)
あり	24.1	17.5	37.3	20.0	29.2
なし	69.5	73.7	60.4	77.5	70.8
わからない	0.2	0	0	0	0
無回答	6.3	8.8	2.2	2.5	0

【引越し希望の理由】

〈複数回答〉(%)

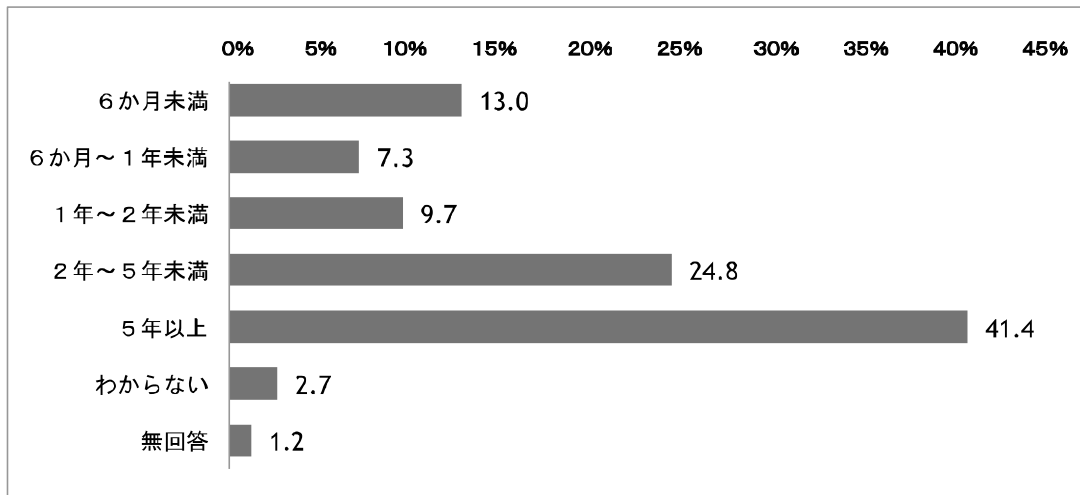
	身体障害 (n=317)	知的障害 (n=95)	精神障害 (n=250)	発達障害 (n=24)	難病患者 (n=26)
家が狭い	21.5	25.3	23.6	37.5	11.5
家が古い	27.8	27.4	25.6	37.5	30.8
バリアフリーになっていない	29.7	12.6	11.6	0.0	26.9
交通の利便性が悪い	16.1	16.8	18.4	16.7	23.1
日常の買い物が不便	17.4	12.6	15.2	8.3	23.1
医療や福祉サービスが受けにくい	3.5	2.1	6.0	0.0	3.8
家賃が高い	16.1	14.7	16.4	8.3	15.4
近隣とのトラブル	8.8	11.6	19.2	12.5	0.0
自立したい	6.9	20.0	26.0	12.5	7.7
その他	19.9	21.1	25.2	16.7	0.0
無回答	4.1	0.0	1.2	0.0	34.5

3. 通院・通所状況について（自宅で生活している精神障害者のみ）

- 精神障害者のうち約9割が現在通院しています。回答者の約6割に精神科入院経験がありますが、その4割が退院後5年以上経過しており、継続的に地域で生活しています。
- 自宅で生活する精神障害者の通院頻度は、月に1回程度が最も多くなっています。

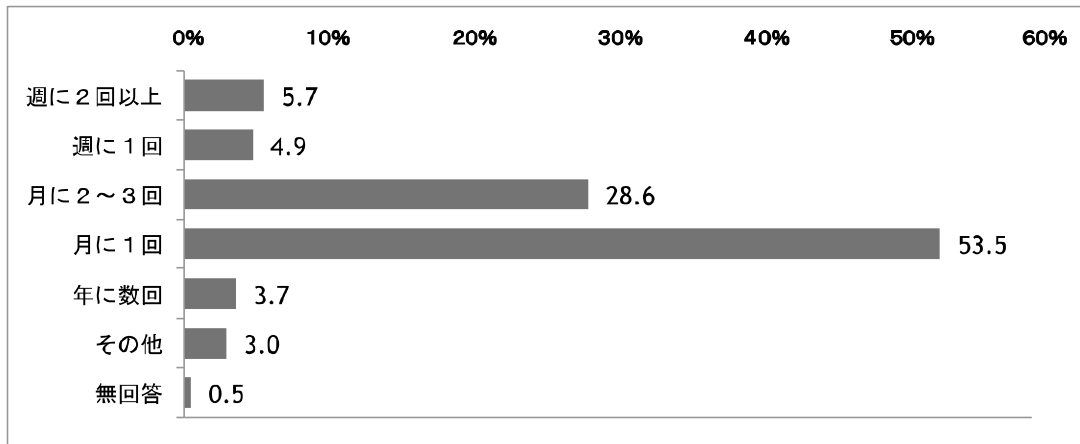
【退院後からの期間】

(n=331)



【通院頻度】

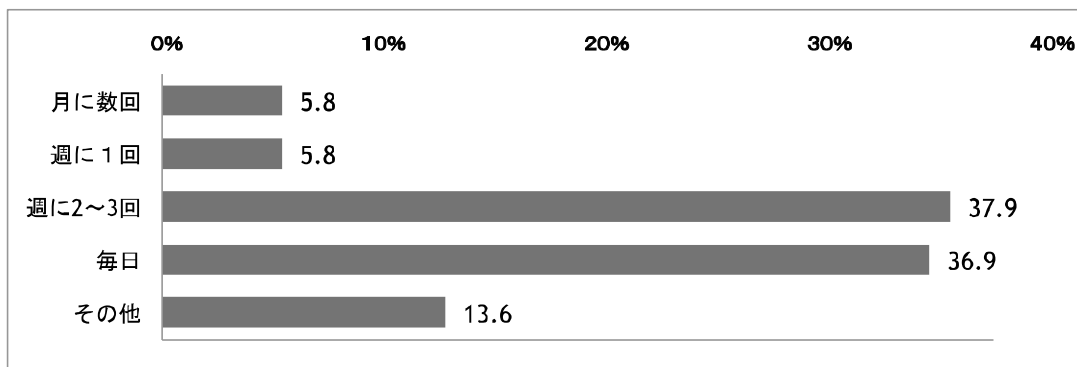
(n=594)



- 回答者の15.5%が福祉施設に通所しており、通所の頻度は週2～3回が最も多くなっています。また、福祉施設への通所が5年以上にのぼる人は34%となっています。通所している福祉施設に対しては多くの回答者が「不満はない」と答えています。

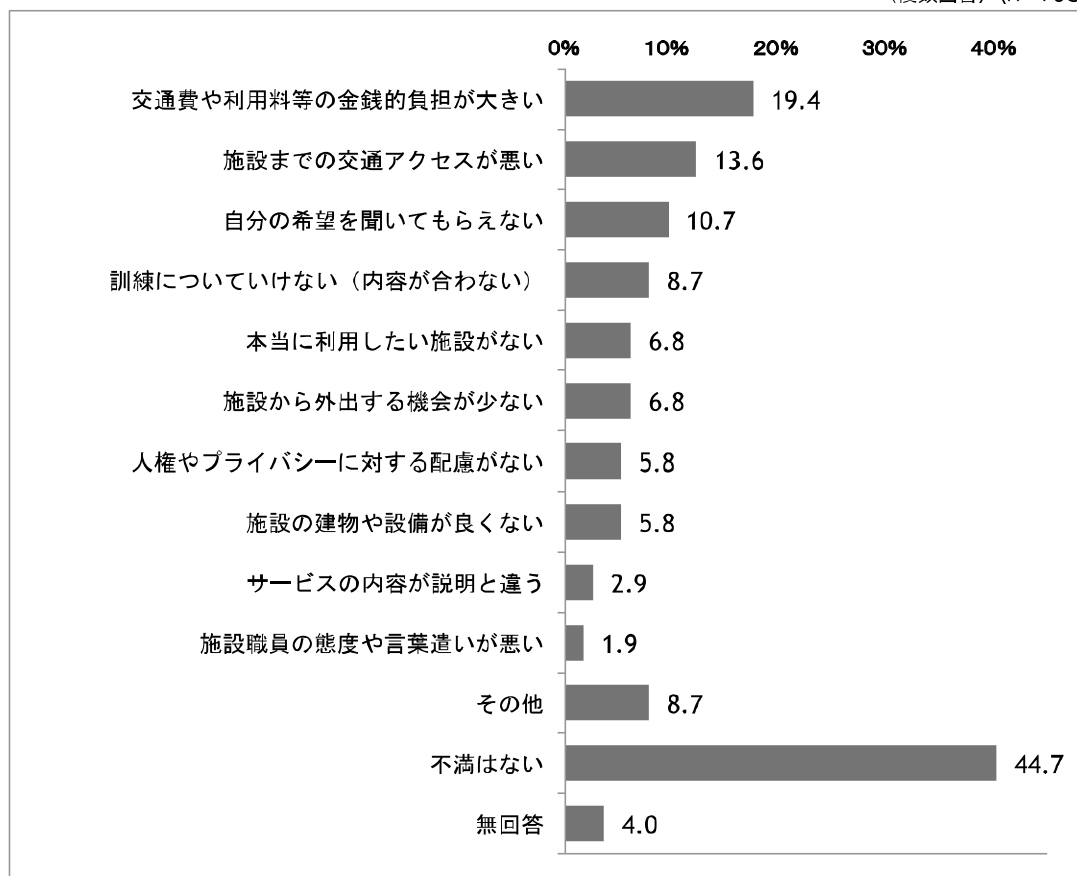
【福祉施設通所頻度】

(n=103)



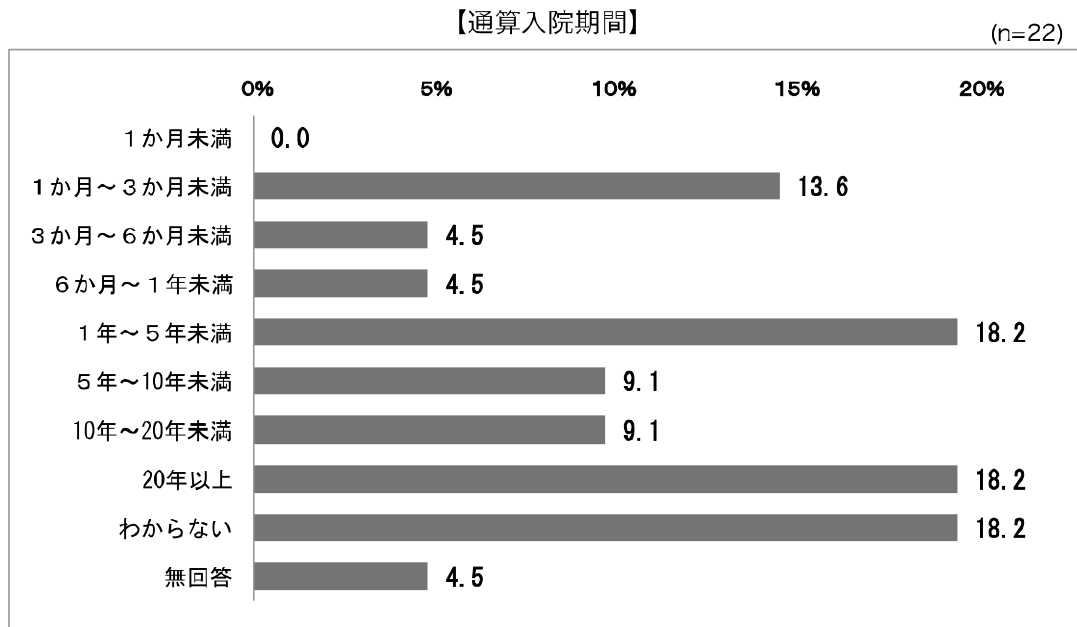
【福祉施設への不満】

〈複数回答〉(n=103)

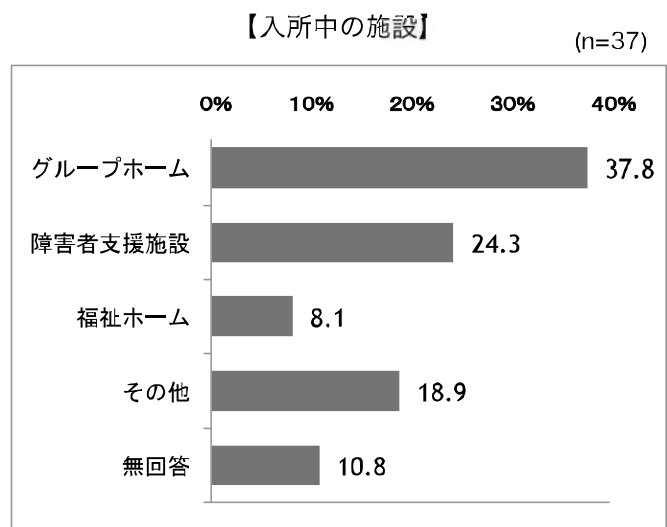
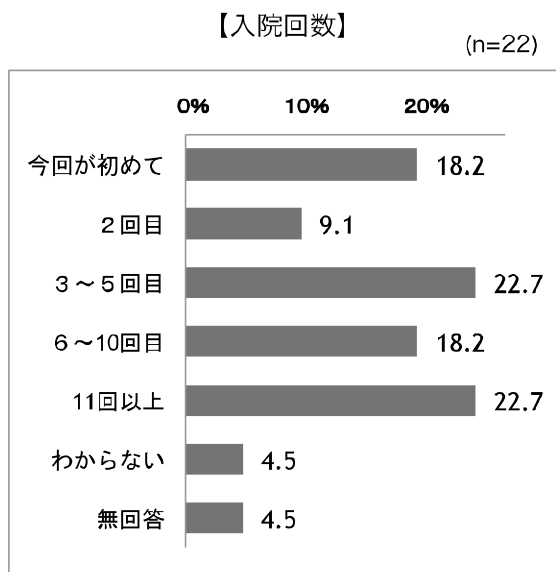


4. 入院・入所状況について（入院・入所する精神障害者のみ）

- 精神障害者の回答者のうち3%が入院中であり、5%が福祉施設に入所中です。現在入院中の人々の通算の入院期間は1年以上が約半数であり、4割以上は6回以上入院を経験しています。

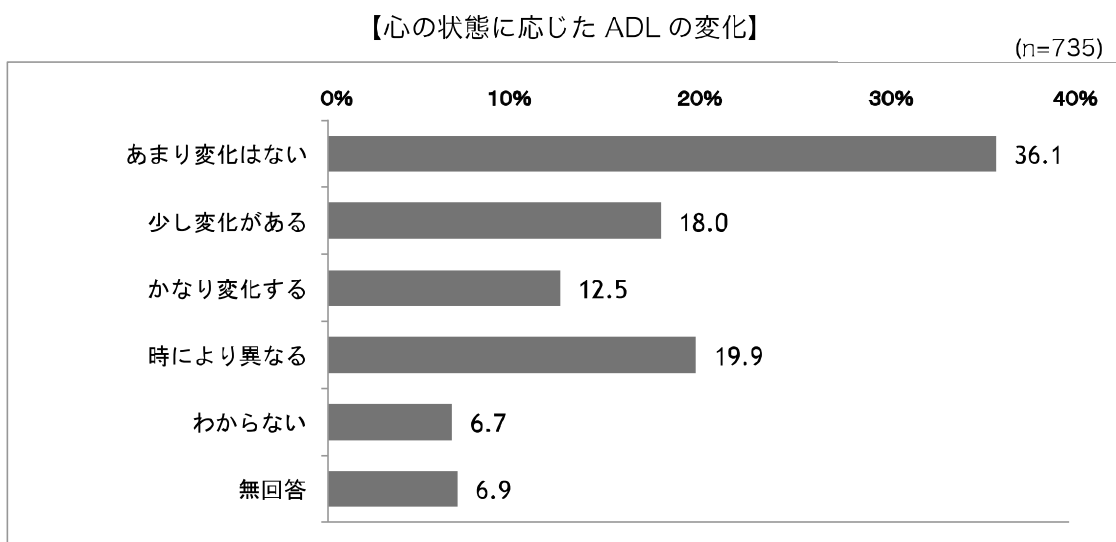
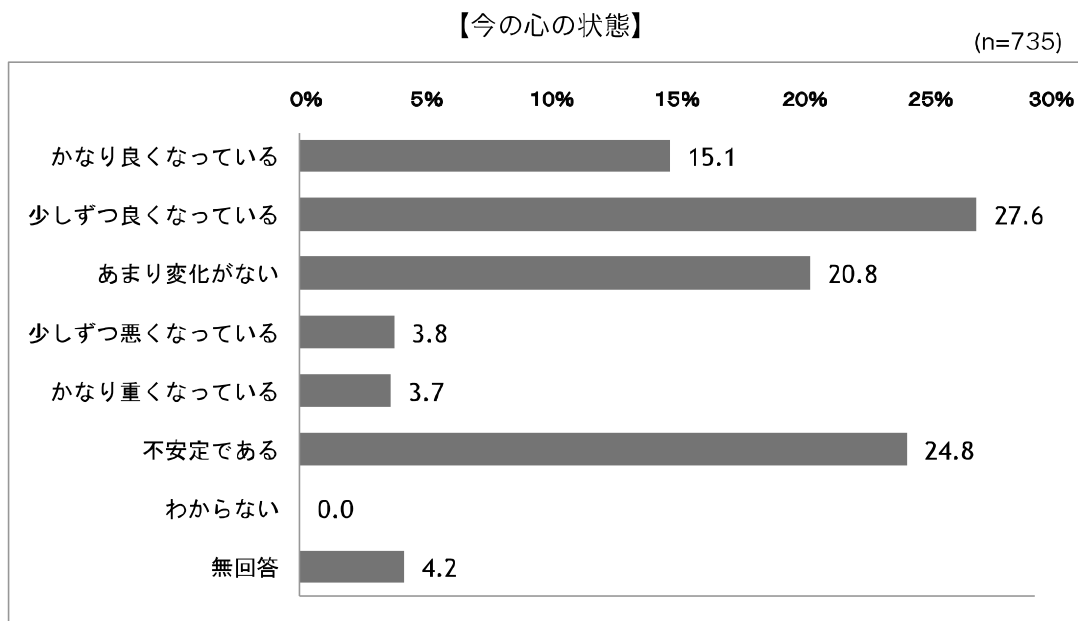


- 入院中の回答者のうち68.2%が退院を希望しており、その7割が、退院後は親や配偶者との同居を希望しています。
- 福祉施設入所中の場合、グループホームの利用が最も多く、続いて障害者支援施設の利用が多くなっています。



5. 心身の状況について（精神障害者のみ）

- 今の心の状態については、「かなり良くなっている」「少しずつ良くなっている」「あまり変化がない」を合わせると、63.5%の回答者が比較的落ち着いた状態であることがわかります。
- 心の状態に応じた日常生活動作（ADL）の変化については、36.1%が「あまり変化がない」と答えています。

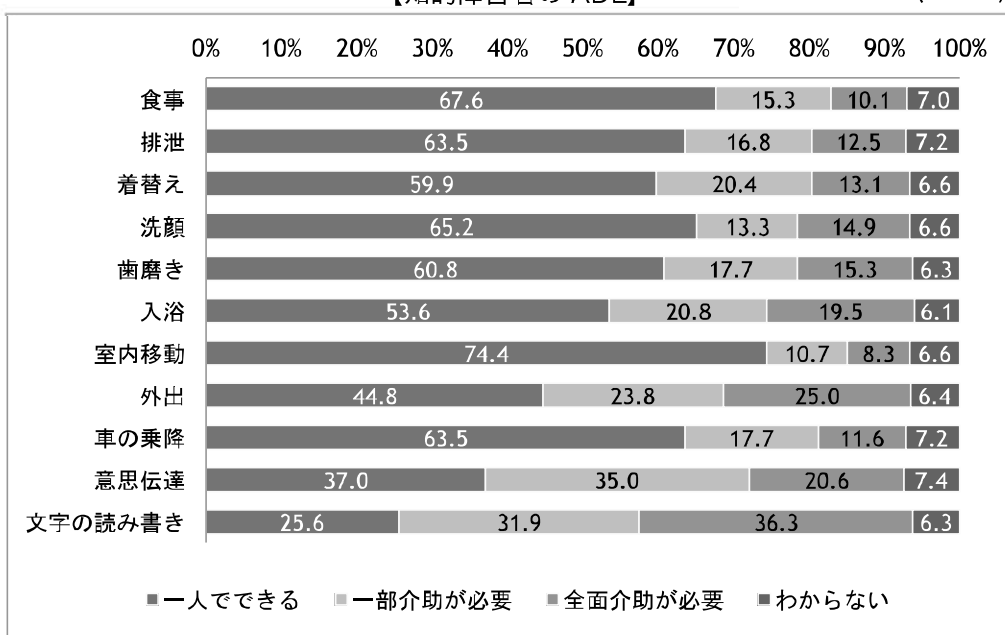


6-1. 暮らしについて〈日常生活動作（ADL）・手段的日常生活動作（IADL）〉

- 回答者のADLについては、特に身体障害者や難病患者など「一人でできる」の割合が高い障害種もありましたが、障害が重度である場合に限定してみると、限定しない場合と比較して「一人でできる」人の割合が全体的に少なくなっています。たとえば「外出」は一人でできる人の割合は、知的障害者全体では44.8%でしたが、重度に限定すると30.2%、精神障害者全体では69.8%でしたが、重度に限定すると11.7%となっています。
- 重度心身障害者では、いずれの項目も8～9割の人が介助を必要としています。

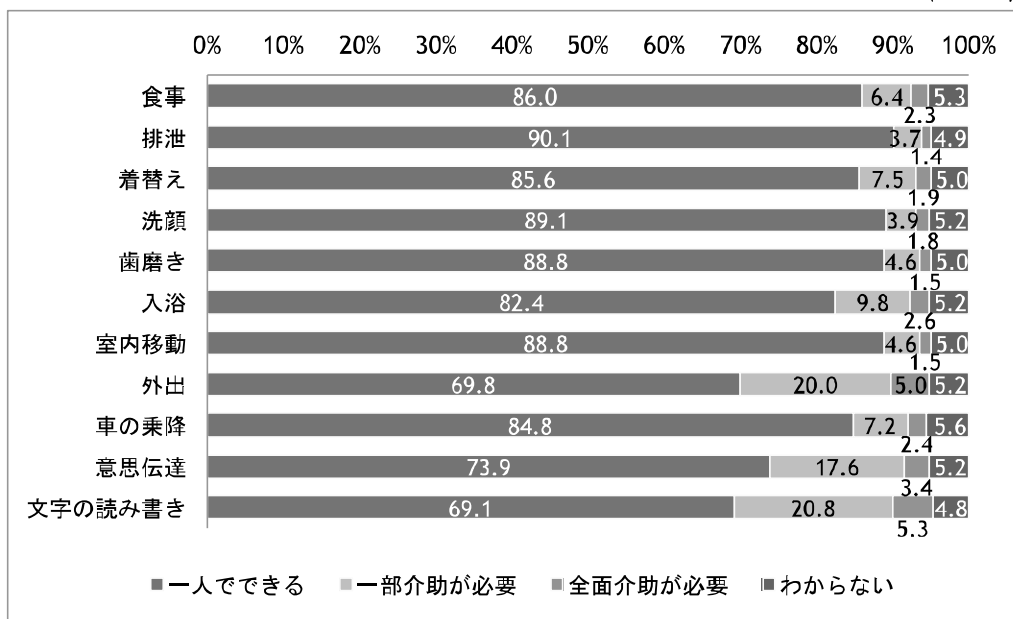
【知的障害者のADL】

(n=543)



【精神障害者のADL】

(n=735)



【重度障害者の ADL】

(%)

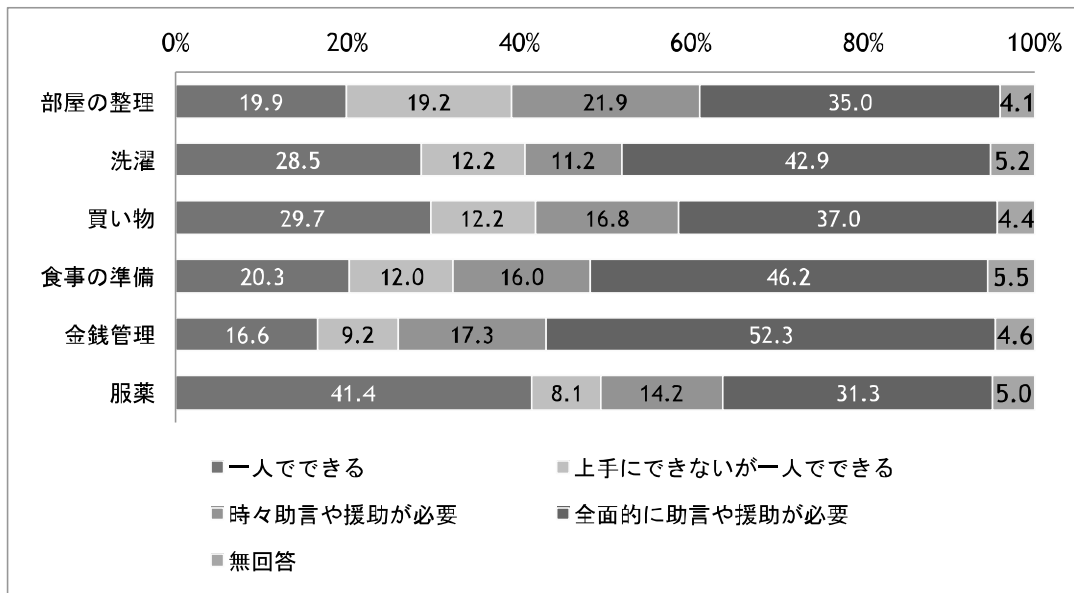
		重度 身体障害 (n=823)	重度 知的障害 (n=342)	重度 精神障害 (n=43)	重度 心身障害 (n=121)
食事	一人ができる	64.0	46.5	38.0	17.4
	一部介助が必要	14.2	14.0	29.8	17.4
	全面介助が必要	15.6	27.9	26.6	61.2
	わからない	6.2	11.6	5.6	4.1
トイレ	一人ができる	60.6	44.2	30.1	9.9
	一部介助が必要	12.0	14.0	32.2	14.9
	全面介助が必要	20.5	30.2	32.2	70.2
	わからない	6.8	11.6	5.6	5.0
着替え	一人ができる	56.4	41.9	27.2	9.1
	一部介助が必要	17.4	14.0	35.4	18.2
	全面介助が必要	20.4	32.6	33.0	70.2
	わからない	5.8	11.6	4.4	2.5
洗顔	一人ができる	64.2	48.8	33.0	14.9
	一部介助が必要	9.6	9.3	23.1	10.7
	全面介助が必要	19.3	27.9	39.2	71.1
	わからない	6.9	14.0	4.7	3.3
歯磨き	一人ができる	64.6	48.8	24.0	11.6
	一部介助が必要	11.7	16.3	31.9	15.7
	全面介助が必要	17.5	25.6	40.1	69.4
	わからない	6.2	9.3	4.1	3.3
入浴	一人ができる	51.2	39.5	17.3	7.4
	一部介助が必要	15.6	16.3	31.3	6.6
	全面介助が必要	27.3	37.2	47.7	81.8
	わからない	5.3	7.0	3.2	3.3
	無回答	0.6	0.0	0.6	0.8
室内移動	一人ができる	61.4	55.8	52.3	19.8
	一部介助が必要	15.7	16.3	21.9	24.8
	全面介助が必要	16.3	20.9	20.8	52.1
	わからない	6.7	7.0	5.0	3.3
外出	一人ができる	45.3	30.2	11.7	7.4
	一部介助が必要	18.2	14.0	31.6	9.1
	全面介助が必要	30.4	41.9	52.3	80.2
	わからない	6.1	14.0	4.4	3.3
車の乗降	一人ができる	50.2	44.2	35.4	9.9
	一部介助が必要	19.1	11.6	31.3	19.0
	全面介助が必要	24.3	27.9	28.1	66.9
	わからない	6.2	14.0	4.7	3.3
	無回答	0.2	2.3	0.6	0.8
意思伝達	一人ができる	63.2	30.2	12.0	10.7
	一部介助が必要	14.9	23.3	34.8	16.5
	全面介助が必要	15.2	27.9	47.4	67.8
	わからない	6.3	16.3	5.3	0.0
	無回答	0.4	2.3	0.6	5.0
文字の読み書き	一人ができる	48.1	25.6	6.4	5.8
	一部介助が必要	20.8	18.6	14.9	9.1
	全面介助が必要	24.8	41.9	74.0	81.8
	わからない	6.1	11.6	4.1	3.3
	無回答	0.2	2.3	0.6	0.0

備考) 身体障害者、知的障害者、精神障害者のうち、それぞれ身体障害者手帳1-2級保持者、療育手帳A1-A2保持者、精神障害者保健福祉手帳1級保持者に限定している。発達障害者、難病患者については該当者が少ないため含めていない。

- 手段的日常生活動作（IADL）に関しては、知的障害者や発達障害者の場合、障害の程度に関わらず、ほとんどの項目で「助言や援助が必要」という人が半数以上を占めています。

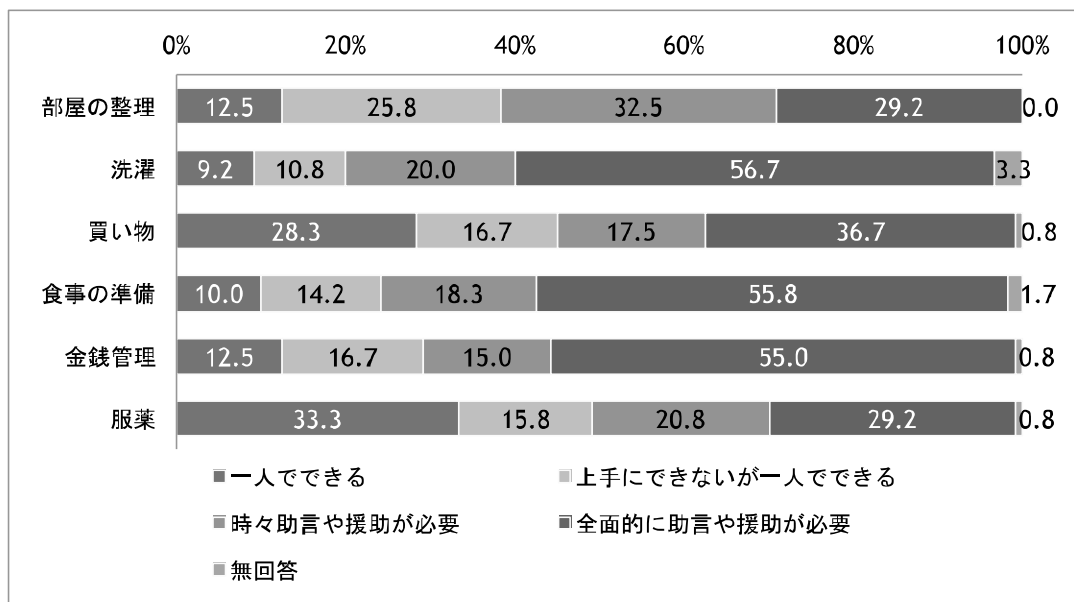
【知的障害者の IADL】

(n=543)



【発達障害者の IADL】

(n=120)



- 重度の障害者に限定すると IADL について「一人でできる」の割合が大幅に下がります。
- 重度心身障害者の IADL では、ほとんどの項目で「全面的に助言や援助が必要」という回答が8割程度となっています。

【重度障害者の IADL】

(%)

		重度 身体障害 (n=765)	重度 知的障害 (n=293)	重度 精神障害 (n=43)	重度 心身障害 (n=99)
部 屋 の 整 理	一人でできる	38.2	16.3	6.5	6.1
	上手にできないが一人でできる	13.2	14.0	6.5	2.0
	時々助言や援助が必要	15.6	9.3	15.4	7.1
	全面的に助言や援助が必要	27.8	53.5	66.6	78.8
	無回答	5.2	7.0	5.1	6.1
洗 濯	一人でできる	40.7	23.3	6.5	6.1
	上手にできないが一人でできる	10.2	7.0	4.4	3.0
	時々助言や援助が必要	8.1	9.3	4.8	1.0
	全面的に助言や援助が必要	34.2	51.2	78.8	82.8
	無回答	6.8	9.3	5.5	7.1
買 い 物	一人でできる	39.3	23.3	6.5	7.1
	上手にできないが一人でできる	8.5	0.0	5.8	3.0
	時々助言や援助が必要	12.4	16.3	8.5	3.0
	全面的に助言や援助が必要	33.1	51.2	73.4	78.8
	無回答	6.7	9.3	5.8	8.1
食 事 の 準 備	一人でできる	36.5	16.3	5.8	5.1
	上手にできないが一人でできる	9.3	2.3	3.4	3.0
	時々助言や援助が必要	11.4	7.0	6.8	4.0
	全面的に助言や援助が必要	36.7	65.1	78.5	80.8
	無回答	6.1	9.3	5.5	7.1
金 銭 管 理	一人でできる	47.8	16.3	5.8	6.1
	上手にできないが一人でできる	8.4	7.0	2.0	2.0
	時々助言や援助が必要	9.9	9.3	4.1	3.0
	全面的に助言や援助が必要	27.7	55.8	83.3	82.8
	無回答	6.1	11.6	4.8	6.1
服 薬	一人でできる	57.5	32.6	16.0	10.1
	上手にできないが一人でできる	7.2	9.3	7.5	7.1
	時々助言や援助が必要	8.1	9.3	11.3	3.0
	全面的に助言や援助が必要	21.4	41.9	61.4	74.7
	無回答	5.8	7.0	3.8	5.1

備考) 身体障害者、知的障害者、精神障害者のうち、それぞれ身体障害者手帳1-2級保持者、療育手帳A1-A2保持者、精神障害者保健福祉手帳1級保持者に限定している。発達障害者、難病患者については該当者が少ないため含めていない。

6-2. 暮らしについて〈介助者〉

- 主たる介助者である母親や配偶者の年齢は、障害者本人の年齢傾向が全体的に低い障害児や発達障害者を除き、5割以上が60歳を超え、約25%が70歳を超えるなど、高齢化の傾向がみられます。
- 主たる介助者は、高齢化もあり約半数が健康状態に不安を抱えていますが、60歳代の約4割、70歳代の約1割が就労しつつ介助をしている状況が浮かび上がってきます。

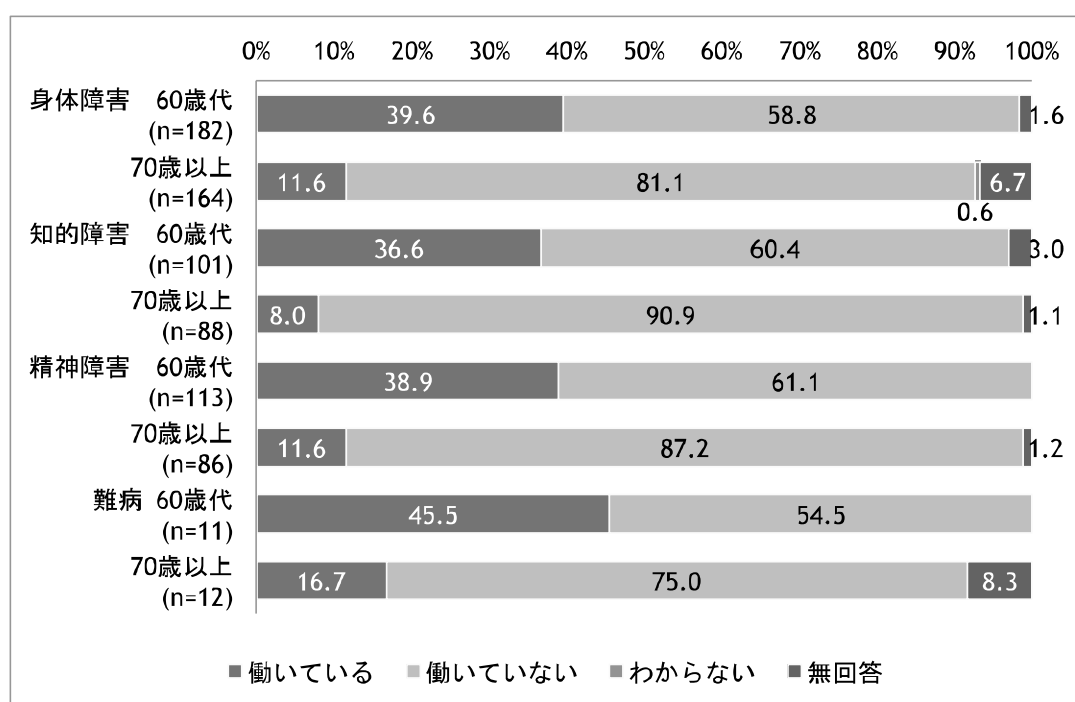
【主たる介助者の年齢】

(%)

	身体障害 (n=621)	知的障害 (n=344)	精神障害 (n=398)	障害児 (n=180)	発達障害 (n=112)	難病 (n=39)
10歳代	0.5	0.6	1.8	0.0	0.0	0.0
20歳代	1.9	0.9	4.3	3.3	0.9	0.0
30歳代	5.3	1.7	8.8	27.8	18.8	5.1
40歳代	11.6	11.3	12.1	57.8	44.6	17.9
50歳代	21.9	25.6	18.3	11.1	23.2	15.4
60歳代	29.3	29.4	28.4	0.0	9.8	28.2
70歳以上	26.4	25.9	21.6	0.0	0.9	30.8
わからない	0.3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0
無回答	2.7	4.7	4.5	0.0	1.8	2.6

- 今後の生活は、自宅での夫婦や家族との暮らしを望む声が多くなっています。
- 地域生活を送る上で必要なこととして、「緊急時や困ったときにいつでも相談でき、必要な支援を受けることができる体制」や「経済的な負担の軽減」「家族の負担軽減」という回答が多くなっています。

【主たる介助者の就労状況（60歳以上）】



【これから一緒に暮らしたい人（上位4位）】

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	発達障害 (n=120)	難病 (n=89)
1位	夫婦で (29.6%)	わからない (26.9%)	親や子どもなど 家族と (45.0%)	夫婦で (53.9%)
2位	親や子どもなど 家族と (20.2%)	親や子どもなど 家族と (24.9%)	わからない (25.8%)	親や子どもなど 家族と (11.2%)
3位	わからない (15.4%)	一人で (11.8%)	友達や仲間と (7.5%)	わからない (9.0%)
4位	一人で (14.3%)	友達や仲間と (9.2%)	一人で (6.7%)	兄弟姉妹と (2.2%)

【地域で生活して行くために必要な支援（上位4位）】

〈複数回答〉

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=735)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病 (n=89)
1位	緊急時や困ったときにいつでも相談でき、必要な支援を受けることができる体制 (38.2%)	緊急時や困ったときにいつでも相談でき、必要な支援を受けることができる体制 (53.2%)	経済的な負担の軽減 (42.0%)	緊急時や困ったときにいつでも相談でき、必要な支援を受けることができる体制 (63.7%)	緊急時や困ったときにいつでも相談でき、必要な支援を受けることができる体制 (75.0%)	緊急時や困ったときにいつでも相談でき、必要な支援を受けることができる体制 (43.8%)
2位	経済的な負担の軽減 (32.6%)	経済的な負担の軽減 (35.9%)	緊急時や困ったときにいつでも相談でき、必要な支援を受けることができる体制 (38.8%)	経済的な負担の軽減 (51.9%)	生活訓練や就労支援 (48.3%)	経済的な負担の軽減 (42.7%)
3位	家族の負担軽減 (27.5%)	家族の負担軽減 (30.9%)	家族の負担軽減 (27.5%)	生活訓練や就労支援 (51.9%)	家族の負担軽減 (46.7%)	家族の負担軽減 (40.4%)
4位	在宅でも適切な医療ケアなどが得られるような支援 (21.3%)	障害者に適した住居の確保 (23.4%)	生活訓練や就労支援 (16.5%)	家族の負担軽減 (50.6%)	経済的な負担の軽減 (43.3%)	在宅でも適切な医療ケアなどが得られるような支援 (38.2%)
5位	障害者に適した住居の確保 (19.8%)	生活訓練や就労支援 (21.7%)	特に必要ない (15.1%)	地域住民等の理解と交流の場の確保 (30.8%)	地域住民等の理解と交流の場の確保 (33.3%)	生活訓練や就労支援 (19.1%)
6位	必要な在宅サービスの確保 (17.4%)	必要な在宅サービスの確保 (20.4%)	わからない (14.7%)	障害者に適した住居の確保 (26.2%)	必要な在宅サービスの確保 (23.3%)	必要な在宅サービスの確保 (19.1%)

6-3. 暮らしについて〈日中の過ごし方〉

- 日中の過ごし方は障害種別により特徴は異なりますが、特に精神障害者の場合は、18～64歳に限定しても、自宅で過ごす人の割合が6割程度と高くなっています。

【日中の過ごし方（18～64歳）】

〈複数回答〉

